

沖縄県からのお願い

沖縄県では、昭和49年那覇市小禄における下水道工事で死傷者38名を出した不発弾爆発事故を契機に、地中に潜む不発弾を事前に探査する取り組みに力を入れています。

現在でも不発弾が発見され続けており、その件数は年間約600件にのぼります。県内では今なお危険と隣り合わせの状態にあります。

沖縄県では県民の生命・財産を守るため、不発弾の探査を進めています。



市街地で発見された不発弾

戦後70年を経過しても身近な所に不発弾が眠っています。

【不発弾を発見したら】
近寄らずに警察(110番)、海上の場合は海上保安部(118番)へ通報してください。

**実際に不発弾探査を行わない建設現場から
不発弾が発見される事例もあり、
事前調査を行わない工事着工は大変危険**です。

沖縄県の補助事業を活用し、
安全に建設工事・土地活用を
行うようお願いします。

